

「ノーモア・ヒロシマ!」「ノーモア・ナガサキ!」「ノーモア・ヒバクシャ!」

平和行動in広島

平和行動in広島が8月4日から6日に実施され、14名が参加しました。

初日は、「核兵器廃絶2008平和ヒロシマ大会」が広島県立総合体育館で開催されました。はじめに、主催者を代表し高木連合会長から「現在も2万7千発の核兵器が存在しているといわれ、核拡散防止条約再検討会議の核兵器の廃棄・削減に向け何ら合意が得られず、重大な危機状況が続いている。連合は、平和市長会議が提唱する2020年までに核兵器を廃絶する2020ビジョンを支持し取り組みを展開する。」との挨拶がありました。その後、折り鶴の献納(1万羽)や被爆者からの訴え、平和コンサートなどがあり、当時の悲惨な

状況を学ぶとともに恒久平和を参加者全員で願いヒロシマからの平和アピールを採択しました。

2日目は、連合主催のピースセミナーに参加し、4歳で被爆した木谷光太さんから生々しい体験が語られました。その後、平和記念公園内の慰霊碑などを巡るピースウォークでは、原爆の子の像や動員学徒慰霊塔へ折り鶴(各1万1千羽)を献納し平和記念資料館で遺品や資料などにより原子爆弾のすさまじさを学びました。

3日目は、平和記念式典に参加し、原爆犠牲者へ黙祷をささげるとともに、世界で唯一の被爆国である日本から核兵器廃絶を目指して、悲惨さを語り伝えていくことを再認識しました。



▲爆心地を見学する平和派遣団



▲動員学徒慰霊塔に折り鶴を献納



▲原爆ドームの前にて

平和行動in長崎

平和行動in長崎が8月7日から9日に実施され、11名が参加しました。

初日は、「核兵器廃絶2008平和ナガサキ大会」が長崎県立総合体育館で開催されました。はじめに、主催者を代表して古賀連合事務局長から「原爆症認定制度の抜本的見直しをはじめ、援護施策の充実に向けて行動を強めていく」との挨拶がありました。その後、被爆者の訴えや高校生平和大使の核兵器廃絶に向けた1万人署名などの報告と決意表明な

どが行われ、恒久平和を参加者全員で願いナガサキからの平和アピールを採択しました。

2日目は、午前原爆投下中心地公園や平和公園内の慰霊碑などを巡るピースウォークへ参加し、組合員や県民から協力をいただいた折り鶴(3万1千羽)を献納する中で改めて核兵器廃絶と世界の恒久平和に向けた想いを深めました。午後は被爆者支援の取り組み・現状と課題をテーマとした平和シンポジウムin長崎に参加し、原爆症集団認定訴訟の取り組みや行政区の違ひにより差別を受けている被爆者認定の取り組みなど、現在も続いている課題を学習しました。



▲高校生の核兵器廃絶署名に署名する参加者



◀平和ナガサキ大会会場前にて

▲原爆落下中心碑前にて平和の願いを込めて折り鶴の献納